



どちらも大きな助けになり、配慮に満ちていた。同大学で見つけることができた資料は私の研究に大いに役立ち、

また柔軟性のあるプログラムのおかげで東北地方の現状を幅広く深く分析することができた。

## 社会変遷の視点から二宮尊徳の祭祀を考察する

梁 珊珊  
(華東師範大学)



2017年10月に私は訪問研究員として神奈川大学を訪れ、快適で楽しい学習と生活の時を過ごした。

10月11日夕方、私は横浜に到着した。チューターの兪鳴奇さんが迎えに来てくれた。神奈川大学に到着後、成田紅音さんがアパートを案内してくれた。その日の夜に、非文字資料研究センターの主任のお誘いで日本の居酒屋に行き、日本人の生活の一端を実際に体験した。

その後の数日間、成田さんは非文字資料研究センターの研究室と図書館、資料室などの学習のための場所を案内してくれた。そのおかげで、私は神奈川大学に少しずつ慣れてきた。10月13日に、私の日本における指導教員である小熊誠先生と会い、相談した後、私の今回の日本における調査内容は「二宮尊徳の変化について」に決定した。

10月15日に私は兪鳴奇さんと一緒に小田原市二宮尊徳記念館で調査を行った。その日は、小田原市民が記念館で集まって年一回の二宮尊徳祭を行う日であった。午前中にはまず尊徳記念館の先生の案内で記念館を見学した。記念館の展示の中には、二宮尊徳の勤勉克己な生い立ちや経歴が解説してあった。また、二宮尊徳が使った生活用具などが展示されていた。さらに、二宮尊徳に関する動画や模型などを通して、二宮尊徳の人生とその影響などを紹介していた。



尊徳記念館の先生が解説している

その後、私たちは記念館のロビーで報徳太鼓の演奏を見学した。あいにくちょうど台風が

また柔軟性のあるプログラムのおかげで東北地方の現状を幅広く深く分析することができた。



尊徳生家の茅葺の屋根

やってきて小田原はその日かなり雨が降っていたため、予定されていた街中での活動は中止となってしまった。

午後は、尊徳祭に関連する文芸作品の上演の時間だった。記念館の1階には、多くの小田原市民がグループで琴の演奏を行った。同時に2階では、小田原市の民間故事を語る活動が行われていた。内容は二宮尊徳についてだけでなく、小田原市のあらゆる事柄に及んでいた。その後、小田原の女性たちによる地域色豊かな田植え歌の演唱が行われた。中国の状況を思い出してみると、中国にも民間の故事や歌は多数存在するが、中高年の人々はたいてい恥ずかしがって公衆舞台の上で自分の才



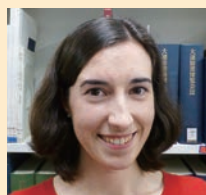
地元の人が民話を語っている

能を披露したりすることはない。しかし、日本の中高年の民衆は大胆で、自分の生活を豊かにすることに長けている。ここまでの活動を見てきて気づいたのは、観衆もまた多くは現地の中高年の人々であるということだった。しかし、その後、専門的な上演団体である国指定無形民俗文化財の相模人形芝居の上演がスタッフによってアナウンスされると、あっという間に観衆が増えたのだった。団体は、悲しげな愛の物語を上演した。私は日本語はわから

なかったが、その節回しと人形の表現に心を動かされた。

今回の訪問中に、特に二宮尊徳に関する調査を通して、私は日本の無形文化財の保存について直接理解することができた。その上で、中国の非物質文化遺産と比較してみると、大きく啓発された。例えば、日本では無形文化財を博物館や記念館と結び付けている。あるいは、文化財保護において民間の力を発揮している、などの点はどれも中国が参考にし、学習すべきだと思う。

## 19世紀後半から20世紀初頭の日本の歴史を探索する



キリ・ヴェメテ  
(ブリティッシュコロンビア大学)

私は主に韓国の歴史を研究していますが、日本の歴史、特に19世紀後半から20世紀初頭の歴史を知ることは私の研究にとって非常に重要であり、日本の外交的あるいは国内的な歴史の理解がなければ、当時の韓国の状況を十分に理解することはできません。また、ブリティッシュコロンビア大学のアジア学科の博士課程学生として、自身の研究に直接関連するかどうかは別として、いつか私も教えられるよう、他のアジア諸国の一般的な歴史は知っておくべきだと思いました。日本の歴史については、いくつかの課程を取りましたが、今年まで私の日本での唯一の経験は、観光客として一週間できるだけ多くの観光スポットを巡ったのみであり、日本と日本の文化に対する理解は単に一般教養的なものでしかありませんでした。

そして今年、私は非文字資料研究センターの支援を受け、18日間日本に滞在し、調査をする機会を得ました。この研究調査旅行での目標は以下の通りでした。

- ・20世紀初頭に韓国に住んでいた日本人女性に関する資料を収集する。
- ・19世紀後半から20世紀初頭にかけて、西洋の女性はどういったかかわる資料を集める。
- ・私の研究に関連する場所を視察し、一般的な日本の歴史をより深く理解する。

く理解する。

これらの目標の達成に向けて、まず文書を収集することに決めました。日本での2日目、国立国会図書館で1930年代のマイクロフィルムと当時の定期刊行物を調査しました。外国のアーカイブである米国のユナイテッドメソジストアーカイブセンター、イングランドのチャーチルアーカイブセンターで研究を行った経験はありましたが、英語以外の言語でアーカイブを調べるのは初めての経験でした。私をサポートしてくれた神奈川大学の学生たちは、とても貴重な存在でした。図書館での滞在は長時間になったにもかかわらず、彼らは献身的に、また忍耐強く手伝ってくれたので調査はとてもはかどり、横浜開港資料館でも同様のサポートをしてくれました。

資料の収集とは別に、日本にある程度長く滞在できるこの機会を利用し、私の研究に視覚的な背景を持たせようと思いました。どのようなテーマでも研究者が実際に歴史的イベントの発祥地を視察し、どのようにその場面



写真1 1936年9月版 緑旗表紙(日本人入植者が韓国で刊行していた定期刊行物)



写真2 銀座和光時計台(1932年建造)